

# 産学官連携事業 栗原市選ばれる

# 細倉で電気自動車実験

IT(情報技術)と電気自動車など最新の交通手段を組み合わせて、新たな社会基盤づくりを目指す産学官連携事業の実験予定地に、栗原市細倉地区が選ばれた。栗原市を中心に大手電機、通信会社などが加わり、国も支援して十年計画で進められる大型事業。細倉地区では、一人乗り電気自動車の実証実験が行われる見通しだ。三十一日に栗原市が実施協定を締結する。

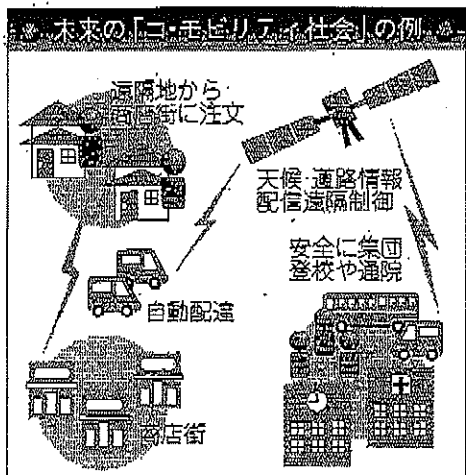
事業は「コ・モビリティ」(可動性・可搬性)の充実に沿い、誰もが簡単に入手し、高齢者や障害者でも自由に移動できる「コミュニティ」(共同体)の実現を目標とする。

事業主体の慶大コ・モビリティ社会研究センター(川島町尚センター)は、高齢者が遠隔操作の電気自動車で病院に通ったり、遠

隔操作で遠隔操作の電気自動車は、文部科学省の科学技術振興費で病院に通ったり、遠

## 慶大中心に大手企業・国とタッグ

受け、企業側も資金を提供し、実験を行い、遠隔操作による走行の基盤データを築く。細倉地区では、一人乗り電気自動車の遠隔操作実験を行う予定。同地区には、市の研修施設「メインプラザ」と同じ敷地内に遊園地跡のゴーカート場が放棄されており、改修して実験施設とする。三月末までに施設の改修を進め、〇九年度末まで実



## 未来の社会基盤 目指す

本記事は河北新報社の著作物であり、無断転載を禁じます。

遠隔操作で高齢者が自由移動